



厚木神社付近
相模川からの日の出
(撮影：小林会員)

令和7年1月号 Vol. 249
(2025年)

あつぎ観光ボランティアガイド協会
ホームページ <https://atugikanvola.sakura.ne.jp>
メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行：令和7年1月11日

発行責任者 会長 田頭 文昭 編集担当者 澤田 正弘

新年明けましておめでとうございます。

昨年の辰年は、天変地異や政治経済でも大きな変化があった一年でした。当協会にとっても天候与件もあり行事の集中で会員の皆様には大変な苦勞をかけましたが、お陰様で新しい年を迎える事が出来ました。

心より感謝申し上げます。

今年は巳年ですが、力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年、脱皮する特性と併せ「再生と誕生」を意味する年と言われています。

方針の「C・S・E」は3年目に入ります。更なる芽を出す年になる様に一つ一つ着実に取り組みをお願いいたします。

また今年メモリアルの年でもあります。「厚木市制70周年」「飯山観音・長谷寺開山1300年」「昭和100年」等ですが、当協会としても出来る限り協力して、厚木市及び地域の発展に貢献できればと考えております。

今年もよろしくお願いいたします。

令和7年 元旦 会長 田頭 文昭



《秦野権現山・弘法山の秋を歩く》

行事区分：企画ガイド（ハイキング）

日 時：11月29日（金） 9：30～14：15

場 所：秦野駅～浅間山～権現山～弘法山～鶴巻温泉駅

参加者：一般 17名、会員6名

ここ数回のハイキングは天候に恵まれず中止が続いていましたが、今回は秋晴れの気持ち良い天気の中で歩くことができました。

厚木、愛川、清川、伊勢原、秦野の5市町村での相乗的発展を目指した『県央やまなみ地域連合』に則り、観光ボランティアガイドとして初めて秦野市での企画ガイドを開催しました。

秦野市は丹沢山地や渋沢丘陵に囲まれた神奈川県唯一の盆地であり、環境省の『全国名水 百選』で1位を獲得したミネラル豊富な湧水や、鶴巻温泉など、豊かな自然を有する地域です。

今回のハイキングは、弘法の清水で湧水をいただき、水無川から浅間山、権現山、弘法山、吾妻山と、秦野の大自然を目いっぱい感じるコースでした。権現山からはっきりと富士山や秦野市街を見ることができ、参加者からは「久しぶりにこれだけ綺麗な富士山を見ることができた」「コロナ以降ハイキングから遠ざかっていたけど今日は来てよかった」と感動の声が上がっていました。

私はハイキングの企画ガイドに参加するのは今回が初めてでした。普段人工物に囲まれて仕事をしている私にとって、秦野市の大自然に浸かることができた時間は心と体を洗い清めるとても意義のある時間になりました。

人の役に立ち自分の生活を守るために一所懸命に仕事をするのはもちろん大切ですが、仕事のことを忘れて山に入り、木の幹や葉に触れてみて、一緒にいる人との会話をただ楽しむ、そういう時間を取ることも欠かせないと気づかされました。

企画ガイドに参加してくださった方からも「みんなで山に登ったり川沿いを歩いたり、そういう機会をもらえるのが嬉しい」と喜びの声を複数聞かせてもらい、観光ボランティアガイドでの活動が市民の方々の人生をほんの少しでも豊かにできていることを改めて実感させてもらいました。私はまだまだ厚木市や周辺地域について勉強中ですが、さらに良い企画ができるよう楽しみながら先輩についていきます。

（西川 記）



《愛甲三郎の旧跡を巡る》

行事区分：企画ガイド（歴史探訪）

日 時：12月6日（金）9：30～12：30

場 所：愛甲地区～小野地区

参加者：一般17名、会員7名

今回は大変良い天気恵まれスタート時から久しぶりに良い歴史探訪ができそうでした。今回は集合場所の愛甲石田駅北口に事前申込と知らずに先着順の受付と思い違いをして早くから来られた親子連れ2名がいました。事前の申し込みの15名に合流し、合計17名1班8名、2班9名でスタートしました。



出発前に北口で全員の集合写真を撮り、私は1班を案内し愛甲石田の駅の説明から始めました。駅名の起源から石田次郎為久の話もしてこちらも弓の名手であることを話しました。この後は円光寺、熊野神社、宝積寺と各々の場所で愛甲三郎の供養塔の案内を進めました。スタートの時間差を取らなかったため1班としては2班と重ならないことを注意していました。中間の愛甲三郎館跡では自治会館を事前に開けておいていただいたため1班が先に休み2班が着いた時に休みを交代し説明をしていただきました。これにより2班とも休みが取れ大変良かったと思います。

この後は縁切り橋、小野神社と進みました。縁切り橋ではお客様から車道で説明するのは危ないので横の歩道で説明した方がいいとの指摘がありました。道標の近くは説明しやすいですが安全を考えると少し離れた場所で説明をした方が良かったようです。12時半には小野神社の案内も終了し予定通りお客様には12時44分のバスに乗っていただくことができ今回は予定通り進めることができ良かったと思います。今回のように何度も案内したコースは時間配分もうまくいきました。

（小林 記）



《厚木の歴史と河川・山の景観を訪ねる》

行事区分：依頼ガイド

日 時：12月11日（水）8：45～12：30

場 所：「飯山観音」～「ぼうさいの丘公園」～「相模川三川合流地点」

参加者：会員3名

本件は厚木市都市みらい部都市計画課が、市民に対して景観まちづくりへの関心や、景観の観点から資源や課題を発見する事を目的としたまちあるきガイドを検討したいということで、あつぎ観ボラに協力要請があり、今回実施になりました。昨年度9月から打ち合わせを行い、今年度7月3日には企画ガイド「あつぎ市街の道標と史跡巡り」に2名の担当者に参加いただき、当会のガイドの様子を見て頂きました。実施にあたり役割分担、ガイド場所の選定等の打合せを行いました。

当日は市民13名の参加がありました。朝方は寒かったのですが、天候に恵まれ予定通りのコースをまわる事ができました。市役所南側駐車場で主催者の挨拶の後、全員マイクロバスに乗車しました。

まずバスの中で田頭会長から厚木市は相模平野の中央に位置し温暖で山・川の自然環境に恵まれ、9千年以上前から人々が定住したと推定されること。東丹沢山地を水源とする多くの川が合流し、相模川を利用した河川交通の要衝であったこと。そして近年では多くの工場、研究所、国・県の出先機関が立地し、多くの通勤、通学者の流入が多いベッドタウンになっている等の概要説明をしました。



小鮎川沿いにバスは進んで一番目のガイド先である「飯山観音」に到着しました。ガイドは「仁王門」から市指定天然記念物の「イヌマキ」へ、さらに石段を登って観音堂の広場へ、東側に広がる横浜のランドマークタワーなどの景色を見て頂きました。さらに神奈川県指定重要文化財である「撞鐘」再建の歴史、境内に多数置かれた「春日灯籠」の彫刻にまつわる歴史の話をして頂きました。メインの「飯山観音」の歴史では奈良時代に行基により開山、平安時代には空海により密教の修験道場になったこと、「観音堂」の歴史とその建物の構造、意匠について説明、観音堂を取り巻く坂東三十三観音巡りの石造については第6番札所（飯山観音）のみを案内し、白山ハイキングコースの登山口も見て頂きました。



バスは森の里の紅葉した並木道を通り二番目のガイド先である「ぼうさいの丘公園」へ向かいました。バスの中で市の担当者から三問のクイズが出されました。厚木市を流れる1級河川の名前の問題は難しかったようです。

「ぼうさいの丘公園」に到着。山の稜線がよく見える場所でガイドをしました。左からヤビツ峠、大山、日向山、鐘ヶ嶽、白山、西山と連なって見えました。大山の別名は雨降山と言って、昔から

雨乞いや五穀豊穰の祈願、商売繁盛の御利益があり、また大山山頂は秦野市、伊勢原市、

厚木市にまたがっており、それに愛川町、清川村を加え5市町村として「県央やまなみ地域連合」の様々な活動が始まっている事を説明しました。

この場所は厚木市の広域避難場所になっていて、東京農業大学厚木農場の一部を厚木市が買い取って開設したこと。災害時には約2万人が避難出来、飲料水を確保するための耐震性貯水槽や備品倉庫などの倉庫や非常用トイレなどがある事を説明しました。

さらに三番目のガイド先である「相模川三川合流地点」に着き、バスを降りて少し進み階段状になっている所でガイドをしました。厚木市は江戸時代に相模川を利用して津久井、丹沢からの薪炭を厚木の豪商が買い取り、平塚須賀港へ輸送して海路で江戸へ送ったり、塩、干鰯は房総方面から集められたりと物資の流通基地であり交易の場として発達し、また宿場もあり人々の往来も多くにぎわっていた事を説明しました。



さらにここから少し下流のガイドポイントに移動し、現在の「あゆみ橋」の少し上流側に以前

「もぐり橋」があったこと。また道標 No.6 の「しょうばし」については、明治末期に常設橋が架かり、常に渡れる待望の橋が出来たのでその様な名前がついたという説明も行いました。ここからバスは厚木市街を通過してスタート地点の市役所南側駐車場に無事に戻りました。

(澤田 記)

《2024 年度ガイド講座》

行事区分：ガイド講座

日 時：①12月14日(土) 講義 アミュール6階607号室 13時～15時30分
②12月21日(土) 市内ガイド体験 9時～12時

参加者：①3名 ②2名 会員①6名 ②5名

①講義（活動内容の紹介）

当講座に応募いただいた3名の方をお迎えして、当協会の紹介、今年度活動内容の説明と今後の活動予定を中心に行いました。2名の方は企画ガイドに参加いただいた方でした。

まず田頭会長から挨拶と当協会の紹介をし、続いて厚木市商業観光課の木戸口様から「あつぎの観光振興」についてプロジェクターを使用してお話をさせていただきました。コロナの時期に一時観光者が減少しましたが、今年は上昇に転じており、これまで以上に厚木の魅力を発信していくことが大変重要な課題である等々のお話がありました。

続いて今年度の活動内容のプリントをお配りして、歴史探訪およびハイキングの企画ガイド、会員研修や厚木市および観光協会の行事支援についても順をおってお話ししました。

15分ほどの休憩の後に、座談会形式でこれまでの説明についての質疑応答や、どの活動に興味を持たれているかなど、気さくにお話をさせていただきました。昨年入会したTさんの経験談やMさんのこんにやく作りのお話しでは皆さん大変盛り上がりました。

最後に21日のガイド体験の事前説明をおこない1回目を終了しました。(鈴木 記)

②市内ガイド体験（市内道標・史跡のガイド）

今日はガイド講座 2 日目のガイド体験編です。受講者は 2 名。わたしにとっては初めてのスルーガイドで、試験官の多い試験の様です。コースは「厚木市街の道標と史跡巡り」で以前も歩いているコースです。

道標とは「道しるべ」で、厚木の道標は「道標で知る厚木のむかし」として設置された、むかしの歴史、文化を知る道しるべです。わたしのガイドが入会への道しるべになればと思います。

今回の受講者は厚木を知らない、知りたいと聞いた方々です。今回の道標巡りは時代順に歩くのではなく、道、人、地域由来と内容もバラバラです。わたしが案内しながらも目にするのは、現在の現代化した厚木で、どのように話せばむかしの厚木に思いを馳せてもらえるのかを考えました。

歩くのは本厚木駅北口をスタートし、むかし厚木村と言われた地域です。最初の道標「天王大縄手」は後半の「厚木神社」へと繋いで、古代の郷名から厚木市へと、むかしから現代に至る変化をその時代の風景、生活なども入れて話す事にし、むかしの厚木村をイメージしてもらえればと思いました。

今日は、受講者 2 人に主ガイド 1 人、副ガイド 4 人です。スタート前に質問は何でも聞いて下さいと伝えて出発。皆さん受講者と話しながら歩き、和らぎ質問も活発に出て、道標の由来に興味を持って頂けた様です。東町スポーツセンターで休憩し入会への意思確認等のアンケートをお願いしました。残念ながらご事情もあり、入会には至りませんでした。

来年度に向けて新会員の人材確保が出来なかったことは、今後の会員募集の手法について課題となりました。今年度の企画ガイドの中でも皆で積極的に声をかけて入会者となる様に勧誘活動をいたしましょう。
(菅谷 記)



《2024 年かながわガイド協議会合同研修会・交流会》

行事区分：合同研修・交流会

日 時：11月28日(木) 10:00~14:00

場 所：横須賀市役所浦賀コミュニティーセンター

参加者：会員 1 名

今回は、よこすかシティガイド協会が実施団体として担当されました。県内の 21 団体から 70 名の会員と、協議会の役員 5 名及び来賓として神奈川県文化スポーツ観光局の笹野課長様と澤村様を臨席いただき開催されました。

主催者挨拶として、かながわガイド協議会の三村会長より挨拶があり先般の、県協力事業の 2027 年の国際園芸博に伴う「花コラム」のお礼があり第 2 稿も無事提出されたとの報告とお礼



がありました。県の笹野課長からは、日々の観光行政に対する貢献に対しお礼があり、国際園芸博の協力では、各エリアが提案した「花コラム」のPRにより各エリアに多くの観光客が訪ねてもらった事を推進する旨話がありました。



そのあと横須賀開国史研究会の山本詔一氏による「日本の文明開化と浦賀造船所」の講演がありました。講演内容は、浦賀というところと浦賀の歴史、江戸時代の享保の改革での下田の奉行所が浦賀に移転されて浦賀奉行所が江戸湾の海上監視の重要な役目を担った事、以降ペリーの来航や大型の軍艦建造・咸臨丸の出港等を経て幕府軍艦の母港になり、浦賀に近代的な「浦賀ドック」が生まれた事等の話がありました。

午後は8班に分かれての交流会となり、浦賀郷土資料館と浦賀ドック跡のガイドツアーがありました。浦賀郷土資料館では、浦賀の町の歴史資料や浦賀奉行所の概要やペリー来航の概要及び近代造船の展示物を見学し説明を受けました。その後、明治時代にレンガで造られ唯一残っているドック（通称レンガドック）の見学と説明を受けてツアーは終了しました。

今回の研修会・交流会から、交流会の班体制が9名と10名で8班であったがメインガイドとサブで誘導・フォローで2名の3人体制でガイドは一気通貫のガイドであったが体制的には良かったと感じました。ただ途中のガイドで他班とのバッティングありタイムスケジュールの大事さを痛感しました。（田頭 記）

〈定点ガイド「飯山観音」下期（10月～12月 日曜日）実施報告〉

飯山観音で10月～12月に実施した定点ガイド下期の結果を報告します。

午前10時～午後3時（5時間）

No	ガイド実施日	参加会員数	ガイドした組数	ガイドした人数	広場に登ってきた人数
12	10月13日	2	3	5	140
13	10月20日	1	3	5	39
14	10月27日	2	1	1	86
15	11月3日	3	22	42	142
16	11月10日	1	6	15	68
17	11月17日	3	14	25	62
18	11月24日	2	5	10	98
19	12月1日	3	12	27	102
20	12月8日	3	10	29	143
21	12月15日	3	8	15	100
合計	10日	23	84	174	980

上期を含めた年間のガイド日の合計は21日、ガイドしたお客様の総数は213組451名となりました。お客様から沢山の感謝の言葉をいただきました。また会員が繰り返してガイドする事によりガイドの質的向上が図れました。皆様の積極的な参加ありがとうございました。2025年度は飯山観音開山千三百年にあたります。十一面観音の特別御開帳日に合わせて、16回の定点ガイドを実施（雨天は中止）する予定です。大勢の参加をお願い致します。

上期合計 (4~6月)	ガイド 実施日数	参加 会員数	ガイドし た組数	ガイドし た人数	広場に登っ てきた人数
	11日	44	129	277	1,886

年間合計	ガイド 実施日数	参加 会員数	ガイドし た組数	ガイドし た人数	広場に登っ てきた人数
	21日	67	213	451	2,866

(澤田 記)



最近の活動

日付	場所	内容	参加者
12月 6日	愛甲地区他	企画ガイド 「愛甲三郎の旧跡を巡る」	会員 7名
12月 8日、15日	飯山観音	定点ガイド	会員 6名
12月 11日	厚木市内	依頼ガイド 「厚木の歴史と河川・山の景観を訪ねる」	会員 3名
12月 14日	アミューあつぎ	定例会	会員 20名
12月 14日	アミューあつぎ	ガイド講座 「講義・活動内容の紹介」	会員 6名
12月 21日	厚木市内	ガイド講座 「市内ガイド体験」	会員 5名
1月 6日	小鮎公民館	編集会議	会員 2名

編集後記

あけましておめでとうございます。箱根駅伝は青山学院大学が2年連続で優勝となりました。秦野市内のハイキングコース（弘法山、吾妻山）を巡る企画ガイドが11月9日に開催されました。2023年から近隣5市町村による「県央やまなみ地域連合」の観光が推進されています。今後もこれらの地域を対象とした歴史探訪、ハイキングを企画していきましょう。

編集委員 阿部 啓冊 小林 直樹 澤田 正弘